

放送番組審議会議事録

1. 2023年3月15日(水)
2. KTS別館(鹿児島シティエフエム株式会社 2F会議室)
3. 委員総数 5名
出席委員数 3名
出席委員 三島盛武、南徹、中尾成昭
放送事業者側出席者 金子貴治、幸野祐子(番組パーソナリティー)、内村明香
4. 番組審議
「空・とぶ・TAMAGO～情報宅配便～」毎週月曜日 11:30～13:30
5. 別紙参照
6. 自社放送 : なし

<議 事>

番組名： 「空・とぶ・TAMAGO～情報宅配便～」
放送日時： 毎週月曜日 11：30～13：30（2023.1.8 放送分）

パーソナリティ 時間帯的に主婦の皆さんがたくさん聴いている時間帯なので、曜日ごとに日替わりの日々の生活にちょっと役立つ内容を放送しています。月曜日はスポンサーである後藤道場の子育て支援や主催する空手道場の話など、子育てのアドバイスをいただいています。その他、防災一口メモ、イベント情報、お天気情報など主婦目線で番組作りに努めています。

委員 後藤道場の年末のお正月準備の子ども達のわくわくとした様子が伝わってきて、言葉で伝えるよりもその場の雰囲気伝わりやすいのでは？と感じました。最大で6秒くらいの空白が3カ所くらいありましたので、少しひやりとする場面がありましたが、原稿をお読みになるのが大変お上手だと感じました。

委員 上手に番組を回されていて、春らしい爽やかな、気分の良くなる番組だなと感じました。沈黙の時間はやはり気になりました。

はたちの集いについての話で、女性の艶やかな着物についての話はありましたが、男性の装いについてのコメントはありませんでした。男女共同参画社会の観点からもどちらにもコメントした方がよろしいのでは？と感じました。

また、ゲストで出演されている方の本が放送時に完売しているとのことでしたが、増刷のご予定はないのか？など相手を傷つけずに本音を引き出すのもパーソナリティの仕事なのかもしれません。

子どもの居場所をつくっている後藤道場。2022年は512人の小中高生が自殺したそうで、子どもの居場所がないことが大きな社会問題となっています。後藤道場さんにそのことについてどう思われるかきいてみたら、何か良いヒントが出てくるかもしれません。パーソナリティさんはゲストの方がどんな新しい発想を持っているかを見抜くことがお仕事ですので、スクリプト通りに流れない方がよいのかもしれません。鹿児島弁と標準語を上手に融合してお話されているのが良いですね。子供達とも対等に話されていた部分も良かったです。

委員　日本は近代化により西洋から様々なことを受け入れ、自我の確立や個性の尊重を重視してきました。しかし、昨今はその部分が強くなってしまい、みんなのためにやろう、人を助けよう、などの部分が希薄になっている印象です。タイトルの「空とぶ TAMAGO」の卵について今日は考えてみませんか？というようにこちらから問題を提起して、その話題について意見を求めるのも良いと思います。

また、もう一つ必要なことは、日常生活の中でこれはおかしいなと思う出来事があったら、どこかで声を上げようということです。もう少し内容に関して踏み込んで話しても良いのでは？と感じました。切り口を様々な箇所求めていくと、あらゆる場所にあるはずで。

委員　礼節の部分を持たずに多様性を語るのではなく、後藤道場が大切にしているように、まずは人間として大切な礼節の部分を確認してから多様性を語った方がよいように思います。非常に難しいとは思いますが、全ての番組にこれはこうだという前提で内容が進んでいきますが、反対意見（アンチテーゼ）を取り入れることで番組が輝くのではないのでしょうか。世の中の矛盾を斬るという内容の番組をしたら面白いかもしれません。問題提起をし続けることが今のマスコミには求められているように思います。

今、一番始めていただきたい番組は、小さな頃から答えがすぐ出てくるタブレットやスマホを手にする子供たちのために、何もない場所で答えのない問題について考える「生活学」についてです。